

III-1

特集 糖尿病は増加しているのか—わが国の現状と予防のエビデンス—

III. 糖尿病の増加を抑制するために—施策とエビデンス—

健康日本21(第2次)への期待—糖尿病の視点から—

後藤 温¹⁾、加藤昌之²⁾、後藤麻貴³⁾、野田光彦⁴⁾

- 1) 国立国際医療研究センター 糖尿病研究部 上級研究員
- 2) 国立国際医療研究センター 臨床研究センター 臨床研究支援部 臨床研究支援室長
- 3) 国立国際医療研究センター 糖尿病研究部 研究員
- 4) 国立国際医療研究センター 専任診療部長、糖尿病研究部長

健康日本21(第2次)は「全ての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会」の実現を目標に、5つの方向性を提案している。そのうちの1つである「主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防」が掲げる疾患の1つに糖尿病がある。糖尿病の発症およびその合併症を抑制していくため、一次予防(糖尿病の発症予防)、二次予防(糖尿病の合併症の予防)、三次予防(合併による臓器障害の予防・生命予後の改善)のそれぞれに関わる指標が設定されている。

本稿では、健康日本21(第2次)を糖尿病の視点から概説する。

健康日本21(第2次)とは

健康増進法に基づき、平成15年に国民の健康増進の推進に関する基本的な方向や目標等を定めた方針が策定された。この方針が平成24年に全部改正されたものが健康日本21(第2次)であり、「全ての国民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会」の実現を目標に、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②主要な生活習慣病の発症予防と重症化予防、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、節酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善、の5つの方向性を提案している。

糖尿病領域の動向

わが国の糖尿病有病者数は、「平成19年国民健康・栄養調査」において行われた推計では、「糖尿病が強く疑われる人」は約890万人、「糖尿病の可能性が否定できない人」が約1,320万人であった¹⁾。「糖尿病が強く疑われる人」はこの調査の10年前である平成9年と比べて約1.3倍に増えている。また、「平成23年国民健康・栄養調査」²⁾では、「糖尿病が強く疑われる人」は全体の10.9%、「糖尿病の可能性が否定できない人」は16.2%であり、男女別にみると男性の割合が多くなっている(図1)。

糖尿病は心血管疾患のリスクを高め、神経障害、網膜症、腎症、足病変といった合併症を併発し、生活の質ならびに社会経済的活力と社会保障資源に多大な影響を及ぼしていると考えられる。糖尿病は現在、新規透析導入の最

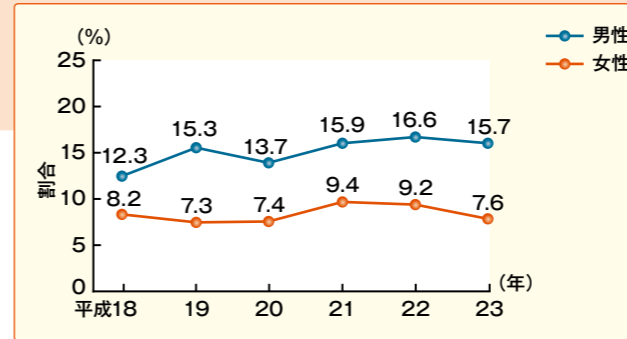


図1 糖尿病が強く疑われる者の割合(20歳以上, 文献2一部改変)

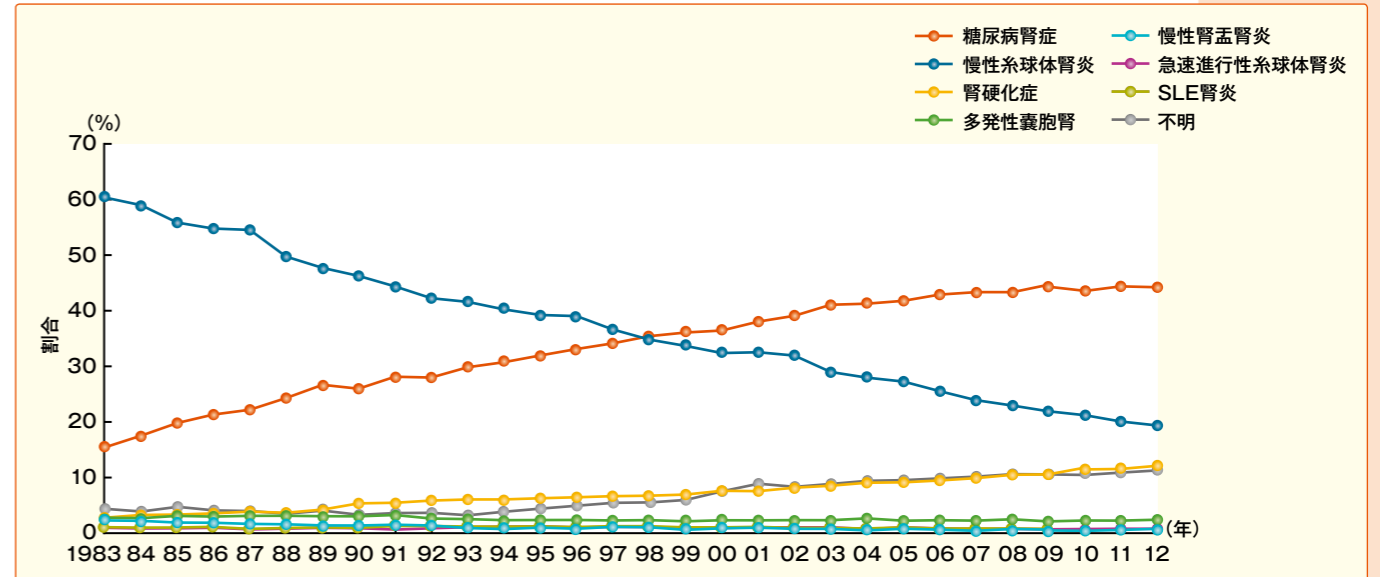


図2 年別にみた透析導入患者の主要疾患の割合推移(文献3)

大の原因疾患であるとともに(図2)、視覚障害の原因疾患としても第2位に位置しており(図3)、心筋梗塞や脳卒中のリスクを2~3倍増加させると報告されている³⁻⁶⁾。

健康日本21(第2次)の設定目標

糖尿病対策に関する指標については⁷⁾、一次予防、二次予防、三次予防に関わるものがそれぞれ設定されている(図4)。

一次予防とは「糖尿病の発症予防」であり、「糖尿病有病者の増加の抑制」を指標としている。糖尿病有病者の増加を抑制できれば、糖尿病自体だけでなく、さまざまな糖尿病合併症の予防にもつながる。

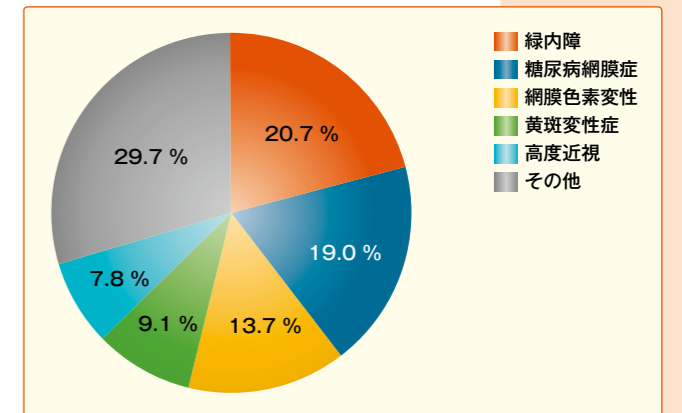


図3 視覚障害の主要原因疾患(文献4より作成)

二次予防とは「糖尿病の合併症の予防」であり、「治療継続者の割合の増加」と「血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合の減少」を指標としている。未治療であったり、治療を中断したりすることが糖尿病の合併症の増加につながることは明確に示されている。治療を継続し、良好な血糖コントロール状態を維持できれば、糖尿病によ